

# 南三陸町 東日本大震災からの創造的復興



## 基本原則

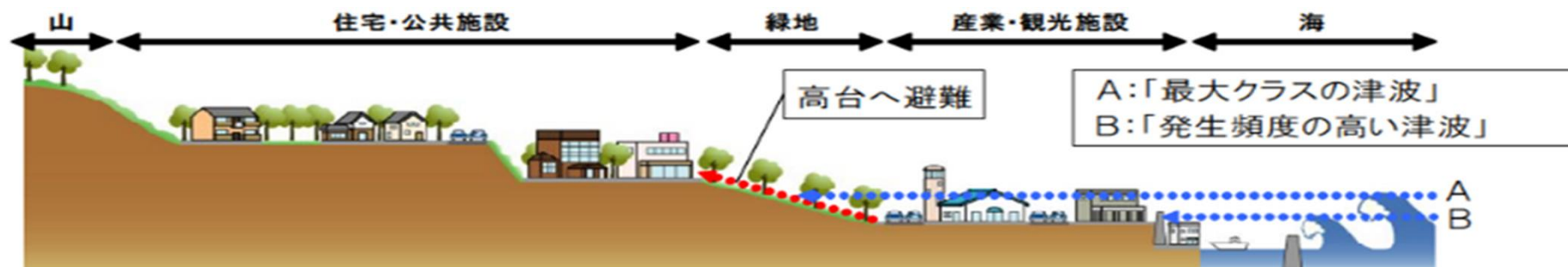
## なりわいの場所は様々であっても、住まいは高台に

当町の歴史は、津波災害との闘いと言っても過言ではありません。

1896年の明治三陸津波、1933年の昭和三陸津波、1960年のチリ地震津波、そして2011年の東日本大震災。

1960年のチリ地震津波では、41名の方が犠牲となり、町ではこの災害を教訓に防潮堤の整備や避難訓練など、防災のまちづくりを実施してきました。

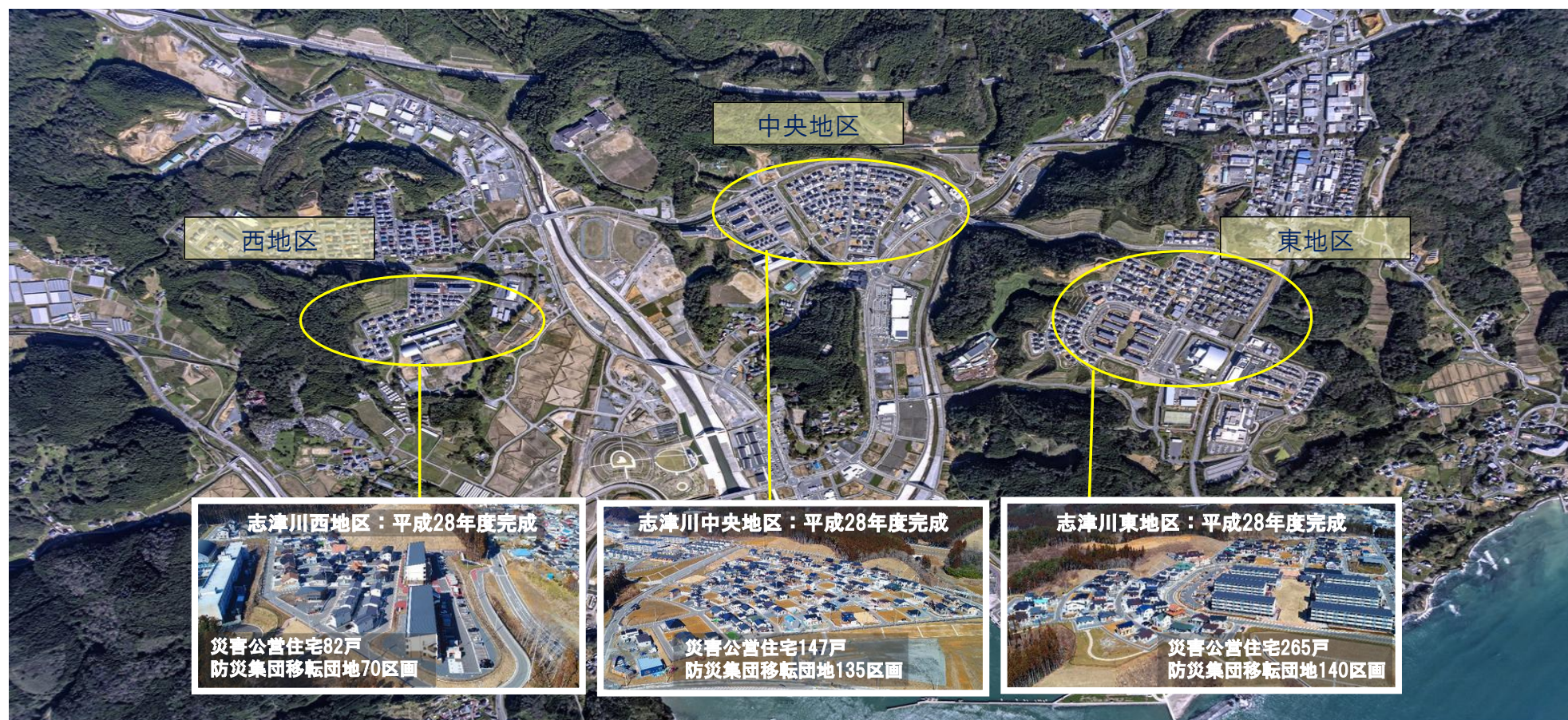
しかし、想定外の被害を及ぼした東日本大震災を経験して、「もう二度と津波で命や財産を失わない」まちづくりに取り組みました。



## 高台移転の実施！！



# 安心して暮らし続けられるまちづくり





## 01 事前復興・事前防災の重要性 -復興のスピードと財源-

- ◆被害想定→復興プランを平時に策定
- ◆仮設住宅・高台移転の団地選定
- ◆公共施設の集約・縮小・廃止
- ◆広域避難への備え
- ◆地域医療の確保
- ◆災害対策本部の機能確保
- ◆逃げたくても逃げれない人がいる

## 02 受援計画を策定しておく

- ◆プッシュ型支援(応援職員の役割と物資の整理)

## 03 公正にはやるが 公平には出来ない

- ◆必要なものが必要なだけ来ることはない

## 04 行政には限界がある (自助・近助・共助・公助)

- ◆日頃から率直に住民に伝える

## 05 自分の命が助かってこそ 他人の命を救える

- ◆人を助ける職務に携わる使命感

## 06 避難訓練と防災教育の重要性

- ◆訓練に勝る防災なし

**07** 今やるべき優先順位を考える

**08** 遠隔地との災害応援協定を締結

**09** 情報を発信し続け、記録を残す

◆トップが記者会見を。記録は次の災害への備え

**10** 災害ボランティアセンターを  
すぐ立ち上げる

◆ボランティアは将来の応援団

◆行政の仕事の一部をカバーしてくれる

**11** 女性目線を大切にする

◆災害対策本部の苦い経験

**13** 人づくりの大切さ

◆持続可能な地域づくりへの原動力

**14** 職員はスーパーヒーロー  
職員にしかできない仕事を優先